

茨城キリスト教学園高等学校同窓会報

ZION

シオン

No.

32

2012



●ZION思い出のコレクションー1

「ZIONビール」

2004年、同窓会館建設資金援助事業の一貫で、ジャズ、シャンソンライブコンサートを開催。その時の記念グッズとして、褐色ビールと白ビールの2本セットを特注し販売した。

開校当時の教室と旧会館の写真を配したレトロなラベルデザインが大好評で、アツという間に完売した。

ジャージ姿がキマツテる数学教師

かつては甲子園球児！

数学担当 杉浦聖美先生 日立市在住



杉浦先生は昭和43年日立市のお生まれ。諏訪小、多賀中、日立一高から茨城大学へ。実家は諏訪梅林のおとなり。近くの諏訪神社、常陸之國御諏訪太鼓には学生時代から参加している。学園祭では担任していたクラスの有志を率いて力強い和太鼓を披露し、大喝采をあげた。大学卒業後、学園に奉職されて20余年。ずっと地元茨城の地面

をしつかりと踏みしめてこられた。地元日立二高出身の奥様とのご縁はやはり「数学」が取り持ったようだ。息子さんには小学3年生。娘さんは学園内の幼稚園に通っている。送り届けるのは先生が、お迎えは日立警察署で事務職をされている奥様のお役目。

——杉浦先生といえば、野球部ですね。「学園に来てからずっと野球部です。

今は副部長。日立二高野球部3年の時、甲子園に行きました」

熱い熱いその経験が野球部指導へとつながる。練習はほぼ年中無休でピシバシ。週末は遠征や試合が入る。ご家庭は奥様が堅い守備を受け持たれているとお見受けした。野球部ウイダーですね。

——生徒指導部長もされているとか。「最近は大変な問題も無く、喫煙騒動も値上がり効果でめつきりですよ」

ところが、携帯電話による誹謗中傷など今どきのトラブルが出てきた。我慢が苦手なことも原因のひとつ。悩める生徒とガチンコで向き合ってきた真っ直ぐなまなざしで語る。キャッチャーミットのように、どんな変化球も受け止める覚悟を感じた。

教師を志した動機もまたその辺にあったようだ。イジメが社会現象化した中学生の頃、そんな世の中にした大人たちに義憤を覚えたことがきっかけ

だ。高校で甲子園というひとつのテッペンをつかんだ後の人生を考えた時、中学生の時の想いが忘れられず、教育者を目指そうと決心したそう。好きだった数学を専攻したが、人間教育が大きな目標となった。

——で、学園の雰囲気は？

「新任当時、先生方の丁寧で親身な指導や、生徒たちとの信頼関係の深さに大いに感銘を受けた。自由な校風、穏やかで心地良い空気感はすばらしい。ひとつ注文をつけるなら、さらに積極的に自主的に行動を起こす強さが欲しい。野球部も是非甲子園まで勝ち抜いて欲しい」と、エールはとまらない。

ところで…と、オフレコで少々意地悪な質問を仕向けるも、信念に微塵のブレもなく、この学園生徒への「愛」は揺るぎない。



学生時代に始めたビリヤード。アマ団体を立ち上げ県代表にも。

*取材時、杉浦先生は高校に在職中でしたが、新学期に学園中学校へ異動となりました。ますます元気の輪が広がることを期待いたします。

昭和61年
1990年

37回生を
の
あ

16



軽音楽部室にて(左から、津田、江幡、大関)



修学旅行での3人(神戸・異人邸)

TIME
TUNNEL

おしゃれでパンクな3人娘 さて、「ロゼッタ」再結成は成るか!?

江幡紫乃(旧姓・荒蒔)

常陸太田市在住

津田智恵(旧姓・奥山)

東京都在住

大関由紀

つくば市在住

今から25年前、この3人の可愛い高校生が、今時のコスプレよりしく、お手製のバフスリーブにギャザースカートのワンピース(こだわって黒のピロードの生地で)を着て、パンクロックに興じている姿を想像してみてください。

江幡 携帯のない時代だったし、演奏している写真がなくて、本当に残念。あるのは部屋で撮った写真だけ。

津田 あの部屋は暗くて、落書きがあったりしてアンダーグラウンド的ムード、といえば聞こえは良いけど、狭くて演奏の練習なんか出来るスペースじゃなかったわね。

大関 それでも楽しかった。同級生の、軽音のリーダー格、クロケンこと黒沢健一君の自宅スタジオで録音したことも。(黒沢君は、後に「L→R」というグループ名で、Jポップ系のミュージックでメジャーデビュー!)

津田 私たちのグループ名は「ロゼッタ」。ヨーロッパ的な響きが、3人とも気に入って…。洋書の上にアクセサリーをあしらったイメージフォトを作ってアピールしたりね。

江幡 それぞれが得意の楽器で、私がドラムス。曲によってはバイオリンを弾いたり…。津田さんはピアノ、キーボード。大関さんがボーカル。

当時流行のパンクバンドとしてスタート! 津田さんがオリジナル曲を作ったりして。

津田 それと、「黒ねこのタンゴ」やサーカスのテーマ曲「美しき天然」のアレンジも。

今聞いても、なかなかのものよね。

大関 ゴスロリ系の曲(ゴシックロリータの意味)だったわね。

当時の軽音楽部は色々なグループが、それぞれの持ち味で、“かなり自由”に活動していたのよね。

江幡 多賀の青少年センターで練習したり、市内の高校生バンドと一緒にライブしたり、自由でエキサイティングなひと時でした。

電鉄プラザでのコンサートは、それは盛り上がりすぎて最高だったわね。

大関 何だか、またあの時にもどりたいな。ねえ、いつか再結成したいわねえ。



皆川豊身
(21回生)
日立市在住

おいしいお茶の楽しみ

アメリカの大学に留学していた時、日本食レストランで飲んだお茶が“かなりまずかった”、これは日本のお茶ではない!とショックを受けた。この経験がきっかけとなり、一念発起して常陸園（お茶販売業）を開いた。

奥様とは茨城キリスト教大学時代に知り合った。キアラ館拳士第1号だ。香道を楽しまれる奥様と今も仲睦まじく、二人揃ってその頃の思い出を語る。

昨年の震災で、大切にしていた茶道具や骨董品が壊れ、ガックリと肩を落としていた。風評被害も重なり、一時は閉店を覚悟したが、長い付き合いのお客様に支えられ元気を取り戻した。老後はオーストラリアのパーズに移住が夢だとか。

悩める子供たちと共に生きる

高校卒業から50余年が過ぎた。広大な自然に包まれたキャンパスで自由を満喫したシオンでの青春時代を思う。

大学卒業後、東京都職員に採用された。後に茨城県に戻り県職員となり児童自立支援施設に勤務。また、悩みを抱えた少年少女達と自宅で生活を共にした。「働くことをいとわず、笑を忘れず、生活を楽しむこと」をモットーに、基本的生活習慣、学習や作業の指導を行ってきた。現在その子供たちも30～60代となった。それぞれに家庭を築き時折訪ねてくれる。震災の後は家の修理にも来てくれた。自分はプロとして当り前の仕事をしてきたのだが、何より妻の支えが大きな力となってくれた。



佐藤光正
(11回生)
那珂市在住



大越和子
(旧姓横須賀 1回生)
水戸市在住

1回生は今でも家族同様

和子さんは、1回生として鍛え上げられた「我慢強さ」を武器に、大越病院を開業されていたご主人を支えてきた。しかし、10年前にご主人に先立たれ、現在病院は閉院となっている。

ところが、病院の靴箱が小さな運動靴で溢れている。なんと、近所の子供たちの集会所になっているのだ。おかげで和子さんは毎日元氣一杯。

ウォーキング、水泳と、体力づくりが和子さんの趣味。全く年齢を感じさせない。その若さの源は、シオン時代に受けたアメリカ式の教育。全員で汗をかいてした作業や開放的だった授業の光景が最近のことのように思い出されるという。

モットーは「どうにかなる」。只今、「1回生80歳同窓会」を企画中!!



ウイークデーの夕方、5時から7時の時間帯は、各テレビ局がそれぞれに趣向を凝らしたニュース番組が肩を並べる。
絵里花さんは、某民放テレビ局ニュース番組のアシスタントディレクター（以下A D）である。
学園の中学高校を卒業。早稲田大学スポーツ科学部でスポーツ文化論を学んだ後、現在のテレビ番組制作会社に就職。2年間のニュース番組A Dを経て今年4月、希望が通り企画部門に配属された。

●いま輝いています●
Bright

生活密着型の
人気番組作り!
（株）クリークアンドリバー勤務
小池絵里花（54回生）
東京都墨田区在住

担当は番組中程のコナー。今が旬の話題やこれから注目される話題など、日々の暮らしに役立つ情報を逸早く発掘リサーチする。取材対象は生活全般。取材交渉やカメラマン、リポーターの人选、宿泊の手配等が主な仕事である。勿論各地のロケにも同行する。フットワークが勝負のこの仕事であるが、本校の男子バスケット部でマネージャーとして鍛えた経験が役立つ。

さて、取材が終了し編集のアシストが完了すると、いよいよ放映である。作り手にとり、放映後の視聴率が気になるところであるが、正解が無く、自分の仕事に誰かの役に立っているという実感がない。この世界。リアルに自分を感じながら、視聴者の視線を見据え、今が頑張る時と取材に走る。

将来は、スポーツドキュメンタリーを手がけてみたい希望を持っているが、焦らずにじっくり取り組みたいと考えている。

昨年の大震災直後に、キリ中時代の友人から、「ニュースを流し続けてくれてありがとう!」とのメッセージが届いた。働く原動力に繋がる嬉しい出来事だった。

幼児教育の夢を追って

高校時代は、ブラスバンド部でサクソフォーンを吹いていた。楽しかったのは野球部の応援。強かったし、ブラスバンドの応援にも熱が入り、スタンドもすごく盛り上がった。熱い思い出だ。

卒業後は茨城キリスト教大学に進学し、幼児教育を専攻。現在は聖児幼稚園の先生として働いている。

日に日に成長していく子供たちと共に奮闘の毎日。自分の家庭でも家事に育児に大忙しの毎日だ。先生になって6年目。毎年卒園の時期を迎えると沢山の思い出が蘇り、涙なみだの日々となる。

子育てが一段落したら、以前参加していた市民吹奏楽団でまた音楽を楽しみたい。



田谷 雛志子
(61回生)
ひたちなか市在住



武田 紋佳
(61回生)
実践女子大学英米文学科
在籍

めざすは、ホテル・ウーマン

陸上競技部に所属していた高校時代。毎日素晴らしい仲間と切磋琢磨しながら走り続けた。その3年間はとても大きな財産となった。

現在は、実践女子大学に在籍し、東京で一人暮らしをしている。高校生活とは一変し、自由な時間が増えた。しかし、いつも側で支えてくれていた仲間の存在がなくなり、今は自己責任の重さを感じながら学生生活を送っている。

将来の目標は、ホテル・ウーマン。「海外からのビジネスパーソンや観光客に、日本滞在を快適に過ごせるようサポートしたい」…。その時こそ、陸上競技で得た財産が大きなエネルギーになるはずだ。



織田 将裕
(41回生)
笠間市在住

経営をマネージメント

実家の織田美容室は将裕さんで3代目。おばあ様が初代で、ご両親も美容師。地元で根ざした笠間本店は、古くからの顧客の信頼が厚い。他に支店を数店、県内に展開している。

将裕さんは名古屋の美容室で修行を積み、通信教育で資格を取った。しかし、さらに技術を高めようとフランスへ渡った。本場の技術は素晴らしく、美容全般からファッションに至るまでのキラめく感性や技を吸収して、実家の美容室に反映させた。

10年ほど現場の美容師として活躍したが、現在は数十人の美容師をかかえる織田美容室グループの経営をマネージメントする立場にある。

“似顔絵”の達人

高校時代の思い出といえば、関東大会や全国高校文化祭に出場したコーラスと、2年生から本格的に描き始めたイラスト。表情をうまく捕らえた似顔絵は校内の知るところとなり、クラスや先生方のイラストを描いて喜ばれた。「勉強を頑張る側面は持ち合わせてなかったです」とは、本人の弁。茨城キリスト教大学40周年記念のシンボルマークが公募された際には、聖書にオリブの枝をあしらったイラストを描いて応募し、見事採用された。

家族は、ソフトプログラマーのご主人と2人のお子さん。本人は通勤距離往復1時間の水戸の職場に通う。10程年前から、茨城放送へ「うっかりかけた」のペンネームで投稿している。



鈴木 文子
(旧姓永井 31回生)
日立市在住

夫婦◎シオン

水越謙太郎(48回生)

牧貴子(旧姓・杉田・48回生)

日立市在住

「いつでも応援団」

謙太郎さんは、資源再利用事業会社(株)水越の3代目。社長である実父の指導の下、専務として会社を支えている。妻の牧貴子さん、長女の彩希ちゃん(4歳)、次女の結彩ちゃん(1歳)の4人家族。

牧貴子さんは現在子育て奮闘中だが、事務面で謙太郎さんの良きサポート役を務めている。それもそのはず、2人の出会いは本校野球部とそのチアリーダー。結婚8年になる今でも、高校時代の気持そのままに心強い応援団である。



日々大切に心がけていることは、「家族が健康で明るく過ごせること」。

ゴルフが趣味の夫。「家庭料理を家族に喜んでもらうのが最高!」と語る妻。温かさや幸せの香りが伝わってくる。長女がキリスト教大学附属の幼稚園に通うようになり、シオンは改めて懐かしく大切な存在になった。

校長就任 のご挨拶



鈴木龍夫

同窓生の皆様におかれましてはご清祥のことと拝察申し上げます。

さて、私はこの度、中学・高校の校長に就任いたしました鈴木龍夫と申します。私は昭和52年に本校に奉職いたしました。高校に1年間所属し、その後3年間中学におりました。その後、高校に異動し、7年間勤めましたが、どうしても数学の研究をしたくなり、都合11年間の勤務の後に、本校を退職いたしました。大学院に入学して、研究者を目指しました。しかし、ご縁があり再び本校に戻ってまいりました。本校の特徴はやはり「ミッションスクール」であること、そして「自由」があるということだと思います。ただ知識を教えるだけではなく、平日頃から、聖書を通して「生きる意味」などを考えることのできる環境が本校にはあります。このように私は本校に再就職いたしました。月日の流れは速いもので、既に約20年が過ぎました。担任、学年主任、そして教務主任を務め、3年前に小澤則男前校長の元で教頭を勤めさせていただきました。途中、小澤校長が病気にいられたので、年度途中から校長代行、副校長、そして昨年6月1日から校長に就任いたしました。この間、3.11の大震災がありましたが、生徒たちと教職員のすばらしい行動力で本校の良さが十分に発揮され、乗り切ることができました。

◆志田諄一先生ご逝去

昨年12月21日0時45分に永眠された志田諄一先生のお別れの会が、2月11日(土)学園講堂でしめやかに執り行われた。

先生は昭和29年、本校教諭として奉職され、短期大学助手、大学助教授、教授を経て、昭和59年学長に就任された。退職後は名誉教授として、常に中心的な立場で学園の発展に寄与された。また、茨城県教育委員会教育委員長をはじめ、県における歴史教育、社会教育に貢献された。日立市では、科学文化情報財団、文化事業団の理事や、郷土博物館長として、地域の発展に尽くされた。

同窓会の行事のホームカミング・デイに毎年足をお運びくださり、にこやかに話をされていた。昨年の学園祭にも奥様とご一緒に同窓会のテントに立ち寄られ、教え子の淹れたコーヒーを美味しく召し上がられた。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

TOPICS

世界で活躍する大先輩

澤田敬也(3回生) 静岡市在住

創立60年を過ぎた昨今、毎年、難関大学への合格者を輩出している本校であるが、それらの卒業生が、国内のみならず海外でも素晴らしい業績をあげている。

その先駆者の一人が文学博士の澤田敬也さんだ。

澤田さんは、学園の高校、短期大学出身。その後オーストラリア留学などを経て、静岡大学、日本大学で教授として教壇に立ち、傍ら英語方言学の研究を続けてきた。

平成21年に、英国の出版社IBCの「世界の教育者トップ100人」に選ばれ、また平成22年には、オーストラリア、ニュージーランド言語文化研究の功績が称えられて、同じくIBCから「生涯功労賞」を贈られた。

著書は、「アメリカの文学方言辞典～辞書にはない語をひく」、「新オーストラリア・ニュージーランド英語中辞典」(いずれもオセアニア出版)などがある。

また、この程、古語や先住民の言葉を経典とした単語を集めて、「オーストラリア・ニュージーランド英語文化大辞典」を編集主幹としてまとめ出版した。これは、オセアニアに興味を持ち始めて「25年の研究の集大成」となった。

澤田さんは、「興味のある方に使って頂けたら…」と、若々しい声で語った。素晴らしい功績にもかかわらず、謙虚で親しみやすいお人柄が感じられた。



3代目名人誕生! 創作落語で日本一



斎須博先生
(国語)

昨年9月、「第3回社会人落語日本一決定戦」が大阪府池田市で開催された。応募者300名以上、予選会進出者170名の中から、見事3代目アマチュア名人の栄冠を手にしたのは、本校国語科の斎須先生だ。

先生の高座名は、「松亭ちゃん平」。老人施設や市民センターなどで落語を披露してきた。昨年の学園祭でも、生徒や父兄の前に自作の落語、生徒と先生の軽妙な会話で始まるクラスの仲間意識がテーマの演目「学校へ行こう」を熱演した。

名人となられた先生の次の目標は、落語をさらに市民の身近なものにすること。「高座を年に数回開けるといいですね」と意欲的だ。

女子第23回全国高等学校駅伝 競走大会に出場!

女子陸上部

連続6回出場となった今大会(平成23年12月25日開催)は、1時間9分台のチームベストを目標に、長距離部員13名が一丸となって都大路の舞台に臨んだ。

1区の井坂菜生(2年)から、村山里緒菜(2年)、磯崎三生(1年)、根本麻由(3年)、アンカー中田ちひろ(2年)に繋がれ、1時間11分58秒(27位)でゴールした。

新学期を迎え、5名の3年生を中心に新たな挑戦が始まっている。



学園創立"初"の関東大会出場

男子硬式テニス部

平成23年度茨城県高校テニス新人大会団体戦で、男子テニス部が2位となり、学園創立以来初となる関東選抜大会に出場した。

レギュラーメンバー9名中、1年生が6名の特徴的なチーム編成だったが、臆することなく団体戦の楽しさを感じながら対戦した。全国レベルの壁は厚く、結果は15位だったが、多くの先輩や支援者の応援にも支えられた試合だった。

(団体メンバー)

石川岳(主将・2年)、多賀俊明(2年)

高橋佑弥(2年)、大谷涼太(1年)

黒沢進乃介(1年)、遅塚由人(1年)

鎌田宗也(1年)、住谷卓太郎(1年)

鈴木匠(1年)



開催しました!!

日立支部総会を開催



平成23年9月19日、「同窓会日立支部第6回総会」が学園記念館で開催されました。総会后、アトラクションとして当学園卒業生星野由美子さんのジャズライブが開かれ、参加者全員大いに盛り上がりました。

第20回卒業生同窓会開催



平成23年11月19日、「第20回卒業生同窓会」が水戸京成ホテルで開催されました。恩師の杉本(旧姓浅野)恵子先生、熊谷芳郎先生、藤枝みい先生をお迎えし、52名の同窓生が集いました。近況の報告、記念撮影…。あつという間に楽しい時間は経過し、「次回の同窓会までお元気で!」と、全員笑顔で再会を誓い合いました。

開催しま〜す!!

水戸支部の総会開催します

6月3日(日)午前10時〜
場所:学生会館
ホームカミングディ当日です。
よろしくお願ひいたします。

《東京支部設立について》

東京近郊同窓生からの要望があり、本部で現在検討中です。該当地域の皆様でご意見がありましたら、事務局までご連絡ください。

「絆」を感じながらのシオン祭



昨年は大震災があり、様々な思いを胸に「第63回シオン祭」に高校同窓会も参加した。恒例のサザコーヒをメインに、2回目の企画となるフリーマーケットや、陶芸家小島英一さんの協力による愛子様御用達の「ひよこの器」を販売。いろいろな思いを届けることができた。

大先輩のお手伝いもあり、収益金は134,405円と、前年比6割アップ。参加者全員いい汗をかくことができた。収益金は、同窓会活動資金として有益に利用される。

学園祭に参加して楽しみたい方は大歓迎!是非同窓会事務局又はお近くの役員にご連絡を。いろいろなアイデアをお寄せください。

「ZION」発行への寄付のお願い

13,000人以上の卒業生各位への「ZION」発行と送料で200万円以上が必要です。毎年資金が不足しております。一人2,000円以上のご協力をお願い致します。
(「ZION」紙に同封の振込用紙をご使用ください)

●ZIONホームページのアドレスが変更になりました

<http://www.icc.ac.jp/zion/>

ありがとうございました!

8名の教職員の方々が勇退・異動されました。

小田真代先生(地理公民・2年間)
後藤剛先生(国語・2年間)
北辻研人先生(情報・3年間)
川又貞志事務長(3年間)

大谷亜彩子先生(保健体育・2年間)
佐藤献先生(英語・2年間)
内村優先生(理科・5年間)
倉内亜貴野さん(事務・3年間)

◆「サテライトIC」を知っていますか?

本学園の大学、大学院、中学、高校の教育・研究情報の発信拠点として、水戸駅北口、中村ビル4階にサテライト・オフィスがオープンした。学園に関する広報スペースや、中学、高校生、仕事帰りの社会人が気軽に立ち寄れる相談ブースがある。また、25名ほど収容できる部屋も備えられ、大学と地域との交流や連携の事業活動に、ミーティングや講演会、公開講座の会場としてその利用・活用が期待されている。

●お問い合わせは、地域連携推進室:TEL0294-52-3215 内線 233,576
サテライトIC:TEL029-306-7630

◆表紙に掲載する「奇品・珍品」募集のお知らせ

今号から、学園に係わりのある懐かしい品々を表紙上で紹介する。「ZION思い出のコレクション」シリーズが始まりました。

例えば、古〜い生徒手帳、成績通知表、定期券、JR切符、ノート、教科書、弁当箱、イベントで使用した物品、学園で使用された機器類など、掲載に適するこれぞという「お宝・珍品・奇品」をお持ちの方は、是非事務局までご連絡ください。

編・集・雑・感

天変地異が起ろうとも、時は容赦なく経って行く。昨年の東日本大震災から1年2ヶ月になる。本学園に拠点を置く支援プロジェクト「クラッシュジャパン」の被災者支援は、皆様のご協力により、着実に活動が行われている。

様々なボランティア活動の中、学園キアラ館にて、被災者鎮魂のための、レクイエム演奏会が行われた。同窓会の有志の方達と一緒にコーラスボランティアとして参加した。何らかの形で被災された方々に寄り添って行けたらと思う。

さて、今回のZIONの「マイ・ライフ」ついに7人の登場となった。18才〜80才までが勢揃い。同窓会の厚みを感じさせられた。同窓会役員の内外部でも、そろそろ世代交代の動きがある。若い役員達に期待したい。(R.B.)

●編集スタッフ

●キヤノン 理枝子・佐藤寿子・手塚正子・水庭敬子・須藤利晴
●荒川真理子・原田順子・中村潤治・石黒文明

●デザイン: M-at

お 待 ち し て ま ~ す !
平成24年度

ホームカミング・デイ

■日時:6月3日(日)AM11:00~PM3:00

■会場:キアラ館=総会、ソプラノミニコンサート
学生会館=楽しい集い

★今年は、5、15、25、35、45、55回生が、ヒーロー及びヒロインです。いいことあります。ごぞって出席ください。★差し入れは、もちろん大歓迎です!

●第1部:平成23年度同窓会総会
(お知らせ事項がいろいろあります)

●第2部:「ソプラノミニコンサート」と「楽しい集い」



2012
ISHIZAKI MINAKO
CLASSIC
MINI-CONCERT

石崎美奈子(29回生)
「気軽にクラシック」

武蔵野音楽大学声楽科卒業。日立オペラ名曲大全集、雨情の里音楽祭などに出演。

■同窓会事務局:0294-52-3215

花の春秋舎

日立市鹿島町1-12-6 0294(21)1414
葬祭部:(21)1470

フラワーエール:イトヨーカドー内 (21)1765
エルフラワー:かわねや南高野店内 (53)8181
フローラ:マルト滑川店内 (21)1187
フローラ:マルト森山店内 (53)8783

heartily for you

〒310-0851
水戸市千波町2145
TEL・FAX029-241-1597
MITO TOHYAMA

富士企業(株)

〒310-0913 水戸市見川町2410
TEL 029-243-1777
FAX 029-243-1793

株式会社 弓削コンクリート工業所

本社
水戸市城東1丁目3番17号 〒310-0012
TEL(029)221-8244 FAX(029)221-8368
岩間工場
空間市安原字中平3114-2 〒319-0206
TEL(0299)45-7520 FAX(0299)45-6334
E-mail:yuge-o@jasmine.ocn.ne.jp

**株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック**

TEL.029-212-7700 水戸ホーリーホック

カクテルと食彩の店 **とらんとん**
日立市幸町1-12-4 pmビル5F Tel.0294-22-1030

Nova日立駅前校
日立市幸町1-12-4 pmビル1F Tel.0294-32-5059

ITTO個別指導学院日立おおみか校
日立市水木町2-43-7 Tel.0294-85-6011

株式会社 **ひたちピーエム商事**
常務取締役 松山圭吾 (32回生)

★広告掲載(有料)希望される方ご一報ください

茨城キリスト教学園高等学校同窓会報

ZION No. 32

●発行日/平成24年5月1日
●発行人/鈴木蒼志男
●発行所/茨城キリスト教学園高等学校同窓会

〒319-1295茨城県日立市大みか町6-11-1 TEL.0294-52-3215(内線1620) FAX.0294-53-9271

http://www.icc.ac.jp/zion/ E-mail:ih-dousou@icc.ac.jp